

# 初の山道トレッキング

## 増毛 21人が復元コースで体験



増毛山道体験トレッキングを楽しむ参加者

【増毛】留萌振興局主催の増毛山道体験トレッキングが、十六日午前七時から町内別荘の山道入り口から岩尾地

区まで約十六キロ区間で行われ、参加した二十一人が山歩きに挑戦した。

増毛山道は、約百五十年前に増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ約三十七キロの山岳道路として開削された。昭和二十四年に増毛く雄冬間の定期船運航を機に住民の利用がなくなったため山道はササの中に埋もれてしまい、幻の山道になった。

トレッキングコースは、平成二十一年から山道復元を目標とするNPO法人増毛山道の会(伊達東会長)の開削要請を受け、振興局の支援で別荘から岩尾まで開削して復元した。この復元コースでトレッキングを開催するのは初めて。

参加したのは地元や留萌市、札幌市、士別市の住民、振興局職員、増毛山道の会の会員ら合わせて男性十七人、女性四人。最高齢は七十七歳の留萌市の女性だった。

開会式は別荘の山道入り口前で行われ、振興局の竹谷千里局長、増毛山道の会の伊達会長のあいさつのおと出発した。小雨が降るあいにくの天候だったが、参加者は「歩きやすい」と感想を述べ、開削中に発見された三角点、電報用に配置されて朽ち果てしまった電信柱や電線、武好駅通(ぶよしえきてい)跡地など山道の遺産を見ながらゴールを目指した。

途中、男性二人と女性一人が「降雨で滑る」などを理由にコースを離脱。増毛山道の会が出発地点まで離脱者の下

山をサポートした。残る参加者は午後五時にゴールに到着した。振興局環境生活課では「雨で道がぬれたため滑りやすくなり予定を二時間ほどオーバーしたが、支援体制も整って無事に終了できた」と話した。次回は八月二十日に開かれる。

(木村繁)

参加したのは地元や留萌市、札幌市、士別市の住民、振興局職員、増毛山道の会の会員ら合わせて男性十七人、女性四人。最高齢は七十七歳の留萌市の女性だった。

開会式は別荘の山道入り口前で行われ、振興局の竹谷千里局長、増毛山道の会の伊達会長のあいさつのおと出発した。小雨が降るあいにくの天候だったが、参加者は「歩きやすい」と感想を述べ、開削中に発見された三角点、電報用に配置されて朽ち果てしまった電信柱や電線、武好駅通(ぶよしえきてい)跡地など山道の遺産を見ながらゴールを目指した。

途中、男性二人と女性一人が「降雨で滑る」などを理由にコースを離脱。増毛山道の会が出発地点まで離脱者の下

山をサポートした。残る参加者は午後五時にゴールに到着した。振興局環境生活課では「雨で道がぬれたため滑りやすくなり予定を二時間ほどオーバーしたが、支援体制も整って無事に終了できた」と話した。次回は八月二十日に開かれる。

(木村繁)